

問1 平安時代の歴史的特色をまとめた解説において、当時の文化が「国風化」していった背景や特徴を説明したものとして、最も適切な記述はどれですか。 (2019年 富山県公立入試 類似)

- 遣唐使の停止などにより、大陸の文化を日本の生活や好みに合わせて消化・吸収した。
- 武士が政治の実権を握ったことで、質実剛健で力強い文化が好まれるようになった。
- キリスト教の伝来に伴い、西洋の学問や芸術が日本の伝統文化と融合した。
- 朝廷の権力が衰退し、地方の農民や町人の力によって素朴な文化が形成された。

問2 平安時代中期、藤原道長が娘の彰子に仕えさせた女性の一人で、当時の宮廷社会の様子や貴族の恋愛を主題とした、世界最古とも言われる長編の物語文学を執筆した人物として正しいものを選びなさい。 (2021年 神奈川県公立入試 類似)

- 紫式部
- 清少納言
- 和泉式部
- 小野小町

問3 平安時代中期の地方統治において、国司が農民から税を徴収し、朝廷へ納める仕組みにおける「国司の利益」について正しく述べているものはどれですか。 (2023年 石川県公立入試 類似)

- 朝廷に納めるべき一定の税を差し引いた、納めた残りの分を、国司自身の利益とすることが認められていた。
- 国司には朝廷から一定の給与が支払われるのみであり、徴収した税から私的な利益を得ることは固く禁じられていた。
- 農民が国司へ納める税はすべて国司の私有財産となり、朝廷へは土地の面積に応じた一定の地代のみを納める仕組みであった。
- 国司は徴税権を持つ代わりに、朝廷に対して自らの私有地をすべて献上しなければならないという決まりがあった。

問4 藤原道長が活躍した平安時代中期には、社会不安を背景に「念仏を唱えて阿弥陀如来にすがり、死後に極楽浄土へ生まれ変わる」という考え方が貴族から民衆にまで広まりました。この信仰を何といいますか。 (2024年 大阪公立入試 類似)

- 浄土信仰
- 禅宗
- 法華信仰
- 本地垂迹

問5 平安時代の歴史を整理した年表において、9世紀から11世紀頃の文化の特色を説明した文として、最も適切なものはどれですか。 (2023年 福岡県公立入試 類似)

- 遣唐使の派遣が途絶えたことで、日本の風土や生活に合った、かな文字などを用いる独自の文化が貴族の間で発達した。
- 聖武天皇が仏教の力で国を守ろうとしたため、唐の鑑真らが伝えた大陸の影響が強い国際的な仏教文化が栄えた。
- 武士が政治の実権を握ったことで、禅宗の影響を受けた簡素で力強い文化が、寺院や武家屋敷を中心に広まった。
- 商品経済の発展により、江戸の町人を中心として、浮世絵や歌舞伎などの庶民的で活気ある文化が流行した。

問6 平清盛が推進した日宋貿易に関連して、当時の社会情勢や背景について説明した文として、最も適切なものはどれか。 (2024年 徳島公立入試 類似)

- 平氏が武士として初めて政治の実権を握り、一族で官職を独占するとともに、貿易の利益によって経済的基盤を固めようとした。
- 足利義満が倭寇を区別するために勘合符を用い、明との正式な外交関係を樹立して貿易の利益を独占した。
- キリスト教の布教を伴う貿易を許可し、ヨーロッパから鉄砲や火薬などの最新兵器やキリスト教文化を取り入れた。
- 江戸幕府が貿易を制限するために朱印状を発行し、東南アジア諸国に日本船を派遣して銀や米の取引を行った。

問7 平安時代に藤原氏が行った「摂関政治」と呼ばれる政治体制の仕組みについて、最も適切に説明しているものはどれか。 (2016年 千葉県公立入試 類似)

- 自分の娘を天皇のきさきとし、その間に生まれた子が天皇になった際に、母方の親戚（外戚）として政治の実権を握った。
- 優れた武士団を組織して他の有力貴族を武力で排除し、軍事的な優位性を背景にして政治の重要ポストを独占した。
- 仏教の教えを政治の根本に据え、大規模な寺院を建立して人心を掌握することで、天皇に代わって国政を担った。
- 地方の有力な農民に土地の私有を認め、その見返りとして徴収した多額の税を背景に、経済力で天皇を圧倒した。

問8 平安時代中期、藤原氏は自分の娘を天皇のきさき（妃）とし、その間に生まれた子を次の天皇に立てることで、天皇の母方の親戚（外戚）として朝廷の権力を独占しました。このような政治形態を何と呼びますか。 (2017年 埼玉県公立入試 類似)

- 摂関政治
- 院政
- 執権政治
- 親政

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> 遣唐使の停止などにより、大陸の文化を日本の生活や好みに合わせて消化・吸収した。	国風文化は、単に中国文化を拒絶したのではなく、それまで取り入れてきた大陸の文化を日本の風土や日本人の感性に合うように作り替えた点に特徴があります。住居様式の寝殿造や、大和絵などはその代表的な例です。
問2	<b>答え 1</b> 紫式部	平安時代中期には、国風文化が発達し、仮名文字の使用が広まったことで女性による優れた文学作品が多く誕生しました。藤原道長などの有力な貴族は、自分の娘の教養を高めるために才能ある女性を「女房」として宮廷に集めており、その一人である紫式部は『源氏物語』を執筆しました。選択肢にある清少納言は、随筆である『枕草子』の著者です。
問3	<b>答え 1</b> 朝廷に納めるべき一定の税を差し引いた、納めた残りの分を、国司自身の利益とすることが認められていた。	朝廷は国司に対し、一定の税を納入することを条件に現地の徴税権を認めました。国司は農民に耕作を請け負わせて税を徴収しましたが、朝廷へ納めた残りの分は自分の収入とすることができたため、多くの国司がこの仕組みを利用して私腹を肥やし、富を蓄えるようになりました。
問4	<b>答え 1</b> 浄土信仰	「末法思想」の影響で、現世での救いをあきらめ来世での幸せを願うこの信仰が流行しました。藤原道長が建立した法成寺や、その子の頼通が建立した平等院鳳凰堂は、この信仰に基づいて「この世に現れた極楽浄土」を表現しようとしたものです。
問5	<b>答え 1</b> 遣唐使の派遣が途絶えたことで、日本の風土や生活に合った、かな文字などを用いる独自の文化が貴族の間で発達した。	この時期の文化は、大陸文化の影響を土台にしつつも、日本の気候や生活習慣に基づいた「寝殿造」の建築や、日本的な風景を描く「大和絵」など、日本の感性に根ざした特色を持っています。これは、唐の衰退に伴う外交関係の変化が、日本独自のアイデンティティ形成を促した結果といえます。
問6	<b>答え 1</b> 平氏が武士として初めて政治の実権を握り、一族で官職を独占するとともに、貿易の利益によって経済的基盤を固めようとした。	平清盛は、武力だけではなく経済力によって権力を維持しようと考えました。自身が太政大臣という最高位に就くとともに、一族で高い地位を占める一方で、宋（中国）との貿易を盛んに行い、そこで得た莫大な富を背景に平氏の全盛期を築きました。
問7	<b>答え 1</b> 自分の娘を天皇のきさきとし、その間に生まれた子が天皇になった際に、母方の親戚（外戚）として政治の実権を握った。	藤原氏は、幼少の天皇に代わって政治を行う「摂政」や、成人した天皇を補佐して政務を執る「関白」の職を独占しました。この地位を盤石にするため、天皇と血縁関係を結ぶ「外戚」の立場を重視しました。武力や宗教、経済力といった手段ではなく、婚姻関係を通じて天皇との結びつきを強めたのが摂関政治の最大の特徴です。
問8	<b>答え 1</b> 摂関政治	藤原氏は、天皇が幼少の間に政治を代行する「摂政」や、成人した天皇を補佐する「関白」の職を代々独占しました。この政治体制は、武力によって権力を奪うのではなく、天皇との血縁関係を深めることで実権を握るという特徴があります。藤原道長や藤原頼通の時代に全盛期を迎えました。